

東アジア連携

～ 更なる検討のための今後の主要論点～

今後の主要論点	これまでの委員コメント
<p>東アジア連携の理念は何か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・草の根の国際交流は次の世代を育てるために重要だ。自らが生活している価値観だけではないことを知ることによって考える人が作られる。アジアとの連携は経済効率性だけでなく、新たな価値観を作り出すためにある。 ・企業間の戦略的な連携は、メリットがある限り進むだろう。 ・日本のものづくりはすばらしい。当面はものづくりを国際交流の基本として生かすとよい。経済が動くとも人もナレッジも動く。
<p>東アジア連携の重要な機能(要素)は何か？ 東アジア連携に関して地域特性に応じた多様な選択肢は何か？ また、その推進策は何か。</p> <p>(1) 知的研究、国際情報収集・発信機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アラブ世界研究所がフランス政府とアラブ諸国からの出資で設立され、情報収集センターとして機能している。我が国も、海外の情報収集機能を質量ともに充実させなければならない。 ・アメリカでは企業が留学生を積極的に受け入れているため、結果として優秀な人財が集まる。 ・かつて、日本でも大平学校を設立して中国に知日派を増やしたが、一つの考えとして、国家プログラムとしてアジアの未来を考えるシンクタンク機能を強化することが大事。アジア諸国の政策担当者が、ひとつの場にあつまって、啓発しあうシンクタンクがあれば人材が育成される。 ・米国のウィルソンセンターでは、世界中の若い研究者が1～2年研究しては報告書を出して帰っていく。日本ではこのようなところがないと東アジアの人々を惹きつける力にはならない。
<p>(2) ビジネス交流 (ファッション・デザイン・コンテンツ・対日投資・企業の海外進出支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のライフスタイルをアジアでビジネス化することができる。例えばコンビニが韓国で定着し、ファッションや若者文化、日本食、ウォシュレットなどアジア諸国の人々にとってはあこがれである。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のものづくりはすばらしい。当面はものづくりを国際交流の基本として生かすとよい。経済が動くと人もナレッジも動く。 ・羽田の国際化比率はもっと高まるのではないか。羽田 ソウル便の需要はとてもあり、将来には、羽田 上海のシャトル便も考えられる。このようなパイプが太くなれば、もっと人は動いていく。 ・部会長より「地域がイメージできる全国計画にしてほしい」とのコメントがあった。FTA 最大の難関は農業である。農業分野でのアジア連携も視野に入れるべき。たとえば、アジアの農業連携として北海道に第2の札幌農学校をつくり、アジアへの農業技術支援と日本の農業の連携を考えてもよい。 ・地方の対日投資は是非進めてもらいたい。中央から押し付けるわけではないが、例えば中国の天津市は、対内直接投資専属のスタッフを置いている。
<p>(3) コンベンション、映画ロケ誘致等による情報発信機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンションや文化にかかわる産業で日本のポジションが後退している。
<p>(4) 地域資源(食・自然・歴史・伝統・祭りなど)を活かした集客(体験型観光)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本21世紀ビジョンは訪日ビジター客が2030年には4,000万人まで増えると予測しているが海外の4,000万人をひきつける“文明の磁力”としての文化資本の充実と活用が必要である。 ・フランスでは、バカンス法施行後、単純にどこかにいくだけの旅行から、異なるカルチャーにどっぷりと触れる旅行へとかわってきた。日本の観光を再構築し、地域活性化につなげられないか。
<p>(5) 都市間国際交流による信頼の構築 (環境・都市問題などの国際交流、姉妹都市、草の根民間交流)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比較優位に関していえば、日本は高い技術力をもっており、これから経済発展が見込まれる中国、インドなどにおいて環境分野で協力できる。 ・日本を含め東アジア諸国の都市間協力により環境廃棄物処理のノウハウを提供することができる。

<p>地方中枢・中核・中小都市は、東アジア連携に関しどんな可能性があるのか？ また、その推進策は何か。</p> <p>(1) 観光資源(食・自然・歴史・文化・祭りなど)を活用して地方との交流、体験型の機会を提供することなどで集客、地元の人々の価値観を多様にしていけるか？</p>	<p>・地方の都市と東アジア諸国との連携は、その都市の中核をなす産業の種類によって考えていくべき</p> <p>(1) まずその都市の中核が製造業の場合、その企業が東アジアに進出している都市との連携を考えていくべき</p> <p>(2) 次にその都市の中核が、非製造業でかつソフトウェアや文化的なコンテンツの場合は、やはり大学や文化施設を中心に、東アジア圏での交流(シンポジウムやコンベンション)を積極的に進めていくべき。</p> <p>(3) 最後に、その都市の中核が観光産業の場合は、観光業自身が、東アジア、または世界的な宿泊業と積極的に提携していくべき。</p>
<p>(2) 地場産業、企業の進出先や物流がある都市と投資交流や関連産業の更なるネットワークづくりが可能か？</p>	<p>・福岡市は、東に位置する北九州市との連携が大事。福岡、北九州、熊本が連携すれば上海、香港、シンガポール並みのポテンシャルはある。</p>